

## 気仙沼を知って広げる戦略

宮城県気仙沼高等学校 3年

佐々木 梨花

私の住む気仙沼に多くの人を呼び寄せるにはどうすればいいのだろう。私は、過疎化が進むこのまちに人の賑わいを取り戻したいと思っている。震災後、気仙沼には多くのボランティアが訪れ、気仙沼の復興の手助けや様々な企画で気仙沼を盛り上げてくれた。私は、市民以外の人々が気仙沼に携わってくれているのに、市民が気仙沼に携われていないことに違和感を覚えている。気仙沼に人を呼び込むためには、市民が気仙沼に積極的に関わり、気仙沼を知っていくことが第一であると思う。そうはいうものの、私自身も気仙沼とのかかわりが少なく、気仙沼をよく知らなかった。私は、気仙沼の魅力を自分で知ることから始めてみた。

何か気仙沼を知るきっかけはないかと思い、フェイスブックで見つけたイベントに参加してみた。初めて参加したのは、気仙沼の魅力について大人と高校生が意見交換をするイベントだ。様々な世代の方々から、気仙沼の良いところや抱える課題を学び、気仙沼への理解を深めることができた。この経験をスタートとして、私は様々な気仙沼を知るイベントに参加した。あるイベントで、参加者の一人から気仙沼の離島の大島にある「奇跡のカブ」の存在を教えていただいた。「奇跡のカブ」とは、江戸時代に気仙沼で発生した冷害による飢饉から住民を救ったカブのことで、命の恩の意味を込めてそのように呼ばれているものである。カブなのに色が黄色く、サツマイモに似た甘みがあるのが特徴だ。気仙沼に住んでいながら、そのカブを初めて知り驚いた。私はその時、「気仙沼に住んでいながら、知らないことが多いのは恥ずかしい。」と同時に、「もっと気仙沼を知りたい。もっと多くの人と発見を共有したい。」と思った。

そして私は「気仙沼を知ろう！学ぼう！味わおう！」プロジェクトを始めた。気仙沼の魅力を市民が知り、学び、体験を通して五感で味わうことを目的としたものである。過去に、奇跡のカブを味わう教室を三回開催した。一回目は市内のシェアオフィスで、二回目は災害公営住宅で、三回目は高校生が企画した祭りのブースで行った。どの回も参加者が新たな発見をして、気仙沼をさらに知っていく姿が印象的だった。

この経験から、気仙沼に人を呼び寄せるには、私たち市民が気仙沼を知ることこそが最も大切なのだと感じた。知ったことを周りにも共有して、それを知った人がまた周りに共有する。そうして魅力や発見の輪が広がって、気仙沼に興味を持つ人が増える。この仕組みができれば、気仙沼にはたくさんの人が訪れると思う。増えた観光客や移住者が、気仙沼の経済をより豊かにしてくれ、気仙沼も今まで以上に、サービスなどのおもてなしに力が入り、よりよいまちに成長するだろう。大きなことを成そうとすればするほど、小さいことを積み重ねることが大切であると思う。私は、これからも活動を続け市内に気仙沼の魅力を発信していこうと思う。